

生活の豊かさに関する意識調査 (2)

筑紫女学園短大 0小川直樹 尚綱短大 谷口彩子
 精華女子短大 西原そめ子 元中村学園大 横田春子

- (調査の目的) 今後の短期大学・大学教育における家族・生活論への対応を検討する基礎資料とすることを目的とする。特に今回は、若年層から高齢層にわたるライフサイクルにおいて、「豊かさ」の内容とその継承の関連をより具体的な事項について検証する。
- (調査の項目) 経済企画庁「国民の意識とニーズ」平成5年度国民生活選好度調査を踏まえた項目とした。
- (調査対象) 短大・大学の親世代で39～59才、146ケース
 高齢者世代67才～85才、14ケース
- (調査結果) 現在の作業上の分析から述べる。
- 親世代 1) 豊かさ観の重要度に対する認識は、高いものの、具体的事象にあたっての評価は、不透明な部分が、親世代についても認められた。
- 2) 豊かさのイメージとしては、「不安の少ない社会」が過半数を占め、次に「ゆとりをもってトータルな自己実現を図れる社会」「環境にやさしい生活ができる社会」が高かった。
- 3) おもに男性の方で「精神的豊かさ」を重視する人が過半数を超えた。
- 4) 高齢者世代では、豊かさに関して「健康」「年金」「職場環境」「地域社会」「近隣関係」にわたる諸因子によって、豊かさを構成していると考えられる。その因子は多岐にわたった。